

まほろば宮下社長のルーツ案内記

福島復興から日本の立て直し探訪

会津から 復興へ 近づく

旅の案内人：神奈川県在住

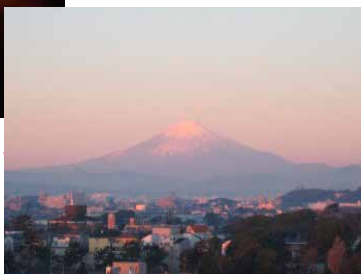
大橋 しのぶ

ドラマから始まる縁

新年あけましておめでとうござ
います。

今年の元旦、本州太平洋側は晴
天に恵まれ、神奈川県のお宅から
も真っ赤な初日の出と神々しい富
士山を拝む事ができ
ました。

大晦日の紅白歌合
戦、ゆく年くる年、元
旦のウィーンフィル
ハーモニー新年コン
サート、二日～三日は



箱根駅伝等々、年末年始は毎年恒
例の定番が満載でしたが、一月十
日からは大河ドラマ「真田丸」が
始まりますね。

一年を通して放映される大河ド
ラマは、歴史好きの私でも最後ま
で見たり見なかったり、その年に
よりまちまちですが今
年はどうでしょうか。

ちなみに二〇一三年
の大河ドラマ「八重の
桜」は幕末の会津若松
と京都を生きた山本八
重さんという女性が主
人公でした。

人気若手女優の綾瀬
はるかさんが主人公を演じた事
や、東日本大震災が発生した事に
よる、東北支援の為の大河ドラマ
化という意味あいもあったせい
か、私のまわりでも「普段は大河
とかみないのだけど、『八重の桜』
は見たよ」という友人知人が何人
もいました。

また、幕末の歴史つて今までよ
く分からなかったけど「八重の桜」

を、見て初めて分かったとか、会
津があんなに悲惨な目にあってい
たなんて知らなかったよとか、白
虎隊つて戊辰戦争の話だったんだ
ねという感想もたくさん聞きまし
た。

そして、「まほろば」の宮下社
長と私の母方のルーツは、共にこ
の会津若松に繋がります。



まだ私が中学生の頃（もう三十
年程前の話になります）、そ
れこそ年末時代劇スペシャルで二
夜連続「白虎隊」が放送された事
がありました。堀内孝雄による主
題歌「愛しき日々」は大ヒットと
なり、堀内氏の代表曲となりまし
た。

このせつなくも美しい曲に載せ
て放送されたドラマ「白虎隊」で
は、ひたむきで純粋な一六歳
一七歳の少年藩士達が、国や藩主
や家族を思いながら戦い、異例の
集団自決により飯盛山で若き命を
散らしていく悲劇が描かれていま
した。

ずっと後に私は、このドラマが
きっかけで会津にはまった
という、何人もの歴史ファ
ン方達と会津若松で出会う
事になるのですが、それく
らいよく出来ているドラマ
だったように思います。

まだバリバリの思春期だ
った私も大して年が変わら
ない少年達の忠義の精神と
悲劇にシヨックを受けまし
た。最初私は父と一緒に、コタツ
に入りミカンなど食べながらのん
びりとこのドラマを見ていたの
ですが、最後はコタツから出てテレ
ビの前に正座して涙をこらえなが
ら見ていました。

そしてその時に初めて父から、
お前の母方の樋口家のご先祖様は

この会津藩出身の武士で、お祖父ちゃんも戊辰戦争に負けた時は、まだ一〇歳だったけれど腰に刀を差して青森の下北半島まで歩いて落ち延びて行ったそうだよ、という話を聞かされとても驚いた記憶があります。

それからずっと心の隅にこの話はあったのですが、当時はまだインターネットも普及しておらず、福島から遠く離れた神奈川では調べる術も思いつかず、何やかんやとあつという間に二十年近くの年月が流れました。



そして今から十年前の二〇〇五年一月八日、私は母と一緒に、初めて会津若松の地を踏む事になったのでした。母もその祖父母もついに



行った事がなかったという会津若松、血筋の帰還としては戊申戦争終結後、斗南藩立藩以来、約一三六年ぶりの事となります。きつかけは、その日に父方の祖母の法事が福島市内であったので「帰りはちよつと足を延ばして会津の温泉に泊まっていく? お母さんのご先祖様の地だし一度くらいは行っておこうか?」みたいな割と軽いのりだったのですが、この時はこんなにも深く会津とのご縁が出来ていくとは夢にも思っていませんでした。

郡山駅から磐越西線に乗り換え西方にある会津若松駅に向かう車中では、会津の方向に沈む夕日とその夕日に照らされて黄金色に輝く雲がずっと見えていて、ああ、きつとご先祖様が喜んでいるのだな、と嬉しく思った事をよく覚えていいます。その夜は会津若松郊外の東山温泉にゆっくり浸かって、次の日には飯盛山を巡りました。偶然にも初めて会津の地を踏んだこの十月八日(新暦)は、ちょうど白虎隊士達の一三七年目の命日であったのです。

詳細は省きますが、それから今日に至るまで約一〇年間、特に始めの五年は集中的に、会津・青森・宮城・秋田・山形・栃木・京都・岐阜・北海道・九州・長野・東京・会津以外の福島県全般と全国各地の先祖の足跡を辿り墓参をする日々を送りました。

そんな中、様々な出来事や様々な方達との出会いがあり、結果として人生が大きく変わっていく始まりとなったのが、この二〇〇五年一月八日の会津若松行きでした。

そんなこんなな経緯があり、昨年まほろばの宮下社長の著書「倭詩」を読ませていただいた時に、母方のルーツが会津若松である事を知り、大変驚いたのです。ちょうどゴールデンウィークに家族旅行で札幌に行く予定があったので、またその時にお会いしたら、ご先祖様のお話も伺ってみようと思いました。

札幌のまほろば本店へ



サーを購入させていただいた
りしていましたが、札幌の店
舗「まほろば」に行かせてい
ただくのはこの時が初めてで
した。

まほろばさんの店舗はまず
外観も、「まほろば」という名
前に相応しく明るく、まるで
大きな鳥居のような木の看板
が迎えてくれて、入るのが楽
しみな気分になります。

広々とし清潔な店舗には沢
山の自然食品が陳列されてい
て、北海道の新鮮な野菜や生鮮食
品もずらりと取り揃えてありまし
た。野菜は宮下社長の奥様・宮下
洋子さんが代表を務める「まほろ
ば自然農園」の野菜が置かれてい
ます。自然農園の名前にも表れて
いるように、年間一六〇種類以上
もの野菜をすべて農薬も化学肥料
も使わずに栽培されているので
す！

店の奥には寺田本家さんのお酒
も樽と一緒にずらりと並べられて
いて、その前には噂に聞いていた、



誰でも無料でいくらでもお水を
汲んでOK！というエリクサー
のハート型の水場がしつらえて
ありました。この水道料金だけ
で毎月かなりの金額になるよう
ですが、宮下社長は「水は天下の廻
りまわりものだから」と笑って
おっしゃって水が無償で提供されて
いるのです。本当にすごい事です
ね。

そしてそんな宮下社長の元、ス
タッフの方達が皆さん明るく親切
で生き生きと仕事をされているの



も大変印象的でした。こんなお店
が近くにあったら毎日、食料品を
買いに来るのに！というくらい温
かい雰囲気のある素敵なお店です。

店の地下には「無限心庵」とい
う神殿のような空間があり、そこ
には「まほろば」の象徴ともいう
べきハート型の石がまるで御祭神
のように飾られています。

そしてその上の棚には宮下社長
の父方のルーツに関係する「宮下
文書」と奥様のルーツに繋がる「竹
内文書」がずらりと仲良く並べら
れていました。

そこで私は自分の母方のルーツ
も会津若松である事を伝え、宮下
社長の母方のルーツについて伺っ
てみました。すると本当に意外な
事でしたが、お母様が早くに亡く
なった事などから、母方のルーツ
については殆ど分かっていないと
のお返事でした。



それならば、私は会津藩士の諸氏系譜資料等を持っているので、良かったらちよつとお調べしてみ



ましようか？ と申し出たのがきっかけで、宮下社長のルーツ探しのお手伝いをする事になったのでした。本当にどんな経験が役に立つかわからないものです。

近江商人だったご先祖様

結果として、宮下社長の母方のルーツである「倉田家」は武士の家系ではなく、商人の家系である事が分かりました。それも、会津藩の中でも一、二を争う「検断」という大商人の家柄だったので、「検断」とはざっくりと言うと、藩からある程度、町方の警察権や裁判権を与えられている大商人といったところでしょうか。

ある資料では検断とは大庄屋で農民や町人の世話役であり、藩政との取次などをする役職ともありました。何となく現在の「まほろばさん」

にも通じるようなお仕事だな、と思います。

そしてその倉田家とは、もともとは蒲生氏郷という戦国武将に付いて近江（滋賀県北東部）の日野や甲賀あたりから移ってきた近江商人である事も分かりました。

実は日野町は、宮下社長がずっと懇意にしている千葉の酒蔵・寺田本家さんの本貫の地でもあり、私もつい一か月前に訪れていた場所でもあったので、この巡り合せに大変驚きました。

やはりご縁のある方達というのはどこかで繋がっているものなのですね。私もルーツ探しをする日々の中でこういう偶然は多々ありましたが、今回のこの偶然にも本当につくづくご縁という物の不思議さを感じました。

もしかして宮下さんと寺田さんのご先祖様は日野や甲賀あたりで親しく交流していて、一方は戦国時代末期に蒲生氏郷に付いて会津へ移り、一方は江戸時代初期に千葉県下総神崎に移住し、そして約三〇〇年〜四〇〇年の時を経たこ

の現代で、子孫同士が自然食やエリクサーをご縁として、再び巡り合っているという事なのかもしれません。

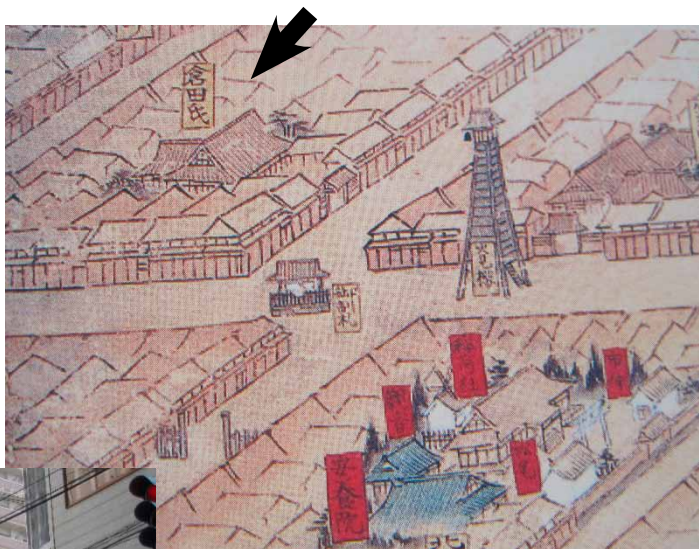
宮下社長も自分が近江商人の家系の末裔であった事、しかも近江商人の中でも寺田本家さんと同じ日野商人に連なるご縁であった事を知り、大変驚き喜ばれていました。

さてその会津・倉田家の初代、倉田新右衛門為実は元々は甲賀で猟銃製造を生業としていたそうですが、蒲生氏郷に付いて会津に来た後、文禄元年（一五九二年）蒲生氏の城下町大変革に与力として参加し、その功によって大町札の辻に宅地を下賜され、大町地区の町年寄（後の検断）となりました。

やがてこの「大町札の辻」は町方の一大中心地となります。ここは藩政を民衆に知らしめる高札場があり、また若松城下から各地に向かう街道の起点でもありました。その街道とは当時の主要街道であった会津五街道（越後街道、米沢街道、二本松街道、白河街道、

※江戸時代の大町札の辻（右図）

道の中央には高札場、その右手には火の見やぐら、左上のお屋敷には倉田氏と記載されています。（「会津若松城下絵図」より）



※現在の大町札の辻（下写真）

倉田家のあった場所に建つ四つ角大正館。（倉田家のあった場所は 1921 年に郡山商業銀行若松支店として銀行が建ち、現在はその建物がイタリアンレストランとなっています）



下野街道）です。そんな重要な場所を倉田家は蒲生氏郷から与えられたという事になります。
蒲生氏郷については宮下社長のルーツ探しの為に最近調べ始めたばかりですが、文武両道、茶道や歌道にも通じたかなり優秀な方だったようです。

会津若松・新春の風物詩

そして江戸時代、この大町札の辻では正月の十日に初市が開かれ多くの人々で賑わいました。「十日市」と呼ばれるこの市は蒲生氏郷時代に始まり四〇〇年以上の伝統を誇る会津地域最大の初市であり新春の風物詩でもあります。

現在は隣に開通した大通り（神明通り）に市の中心は移ったようですが、今でも約四百店舗もの出店が出て、店頭には起き上がり小法師、風車、市飴などの縁起物や日用雑貨、漆器、飲食物といった様々な商品が並び、毎年十五万人以上の人々が集まります。

会津の人口が一万三千人くらいなので、人口プラス二万人くらいの人混みでごったがえすという事になります。

地方都市の常で、普段は割と閑散としている神明商店街ですが、やはり市や祭りというのは、今も昔も町の活性化の為に重要な行事ですね。



ちなみに今年の「まほろばさん」も一月七日～十一日に「骨董市」を開催されるとの事、時を超え場所を超えてご先祖様と同じような事をされるのが面白いなあと思いました。

さて大町札の辻では、この十日市の始まりを告げる大切な「米引き」という神事がありました。

まず大晦日から大町の南側に春日神社、北側には住吉神社の仮屋が建て置かれます。そして十日の未明に市神様

をお祭りし、その後検断の倉田氏の屋上から大黒様のお面をかぶった男性が長い綱の付いた米俵を路上に投げおろすのです。その米俵を百人の禪姿の男たちが北と南に分かれ綱引きで引き



「十日市米引き（大町） 岩浅松石画」より

合い、その結果でその年の米価を占いました。ちなみに北が勝つと米の値段は安くなり南が勝つと高くなっ

たそうです。

この時期、東北内陸部の盆地にある会津若松は大雪におおわれています。そんな雪の中、



写真出典：会津坂下町HPより

上げながら「米引き」の開始を待ちました。

また町人のお祭りに武士は顔を出してはならない決まりがあるのにもかかわらず、藩士達も変装までしてこっそり見に来ていたそうです。

きつと私のご

先祖様も変装してこっそりと見に来ていた事でしょう（笑）。

そしてこの米引きが十日市の始まりを告げる行事でもありました。

人々はこの仮屋の市神様にお参りしてから、十日市で日常生活用品や農具類、起き上り子法師や風車縁起物などを買い求めたのでした。

まず市神様にお参りし、この神聖な場所では縁起物や必要な物を買うという事が会津の人達の年始の大切な行事だったようです。

かくも倉田家のあった大町札の辻は町方の中心地であったのです。

明治に入り、大町での米引きは行われなくなったのですが、現在でもその発展形とも言える俵引の行事が会津美里町や会津坂下町で行われているそうなので、ご先祖様達を偲び、いつか一度は見に行ってみたいと思っています。

この「大町札の辻」を拠点として宮下社長へのルーツ探しの旅は始まったのでした。

今回はこの倉田家の跡地にあるイタリアンレストランや、宮下社長の御祖母様や高祖父様が住んでいた跡地のレポートなどをお送りしたいと思います。

それでは皆様にとって益々素晴らしい良き一年になりますように。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

二〇一六年一月三日

大橋 しのぶ

新春お勧め情報 その②

ゆにわマートにて「エリクサー浄水器の福袋」が販売中です。メイン商品をまほろばの浄水器エリクサーとして、他にも色々な水関係商品が入ってお得な福袋となっています♪

※下記はゆにわマート＆メルマガよりの抜粋です。

●自宅の水道がおいしい感動の水に！ゆにわの浄水器エリクサー福袋。

※商品5点（410,000円相当）が入って、368,000円！

目玉は、ゆにわで使っている浄水器「エリクサー」。

私たちはこの水を「縄文時代の水」とたとえずっと大切にしてきました。

水が変わると、生活のすべてが変わります。



※内容の詳細＆ご購入はゆにわマートまで。

（お電話でのお問い合わせ）

・072-864-5640

・電話受付時間 10:00 ～ 19:00（木曜定休）

●著者プロフィール

大橋 しのぶ

寺田本家 23 代目当主故・寺田啓佐さんとの出会いにより、蔵の微生物をテーマにした小説を書き、小冊子を発行することに。ペンネームで発表した小冊子作品は 5 作になる。2015 年、まほろば社長宮下周平と共にルーツ探しの旅の案内人として同行。神奈川県在住。

新春お勧め情報 その①

1 月 9 日（土）よる 9 時から、寺田本家さんのマイグルトが TBS の「世界ふしぎ発見！」に登場しました。マイグルトは「まほろば」でも好評販売中です♪

※下記は寺田本家 H P よりの抜粋です。



●TBS 「世界ふしぎ発見！」にマイグルトが登場。“太りにくい！老けにくい！その秘密はここにあった 知られざる腸内細菌パワー”

※『世界ふしぎ発見！』は 1986 年から TBS 系列で放送されている歴史と遊ぶクイズ番組。1 月 9 日は“腸内細菌パワー”がテーマ。番組の中でマイグルトが紹介されました。



表紙写真（上側）：会津若松城

（下側）：白虎隊が自決した飯盛山からの眺望